

福島県内大学図書館連絡協議会誌

第 27 号

◇第 42 回 福島県内大学図書館連絡協議会総会議事録 会津大学情報センター	1
◇第 32 回 福島県内大学図書館連絡協議会実務者研修会報告 担当：会津大学情報センター	3
◇福島県立図書館 新サービスの紹介 福島県立図書館	37
福島県内大学図書館連絡協議会会則	39

令和 8 年 3 月

第 42 回福島県内大学図書館連絡協議会総会 議事録

日 時 : 令和 7 年 7 月 29 日 (火) 13 : 30~13 : 50

場 所 : 会津大学管理棟 3 階 中会議室

出席者 : 11 館 17 名

欠 席 : 2 館 (会津大学短期大学部附属図書館、福島工業高等専門学校図書館)

開 会

議長選出

議事に先立ち、参加者の自己紹介がなされた後、議長の選出を行った。

令和 7 年度幹事館 会津大学情報センターの北道が議長に選出された。

1 報告事項

(1) 令和 6 年度事業報告

常任幹事館の福島大学附属図書館より資料に基づき報告があった。

2 協議事項

(1) 令和 6 年度会計報告 (案)

常任幹事館の福島大学附属図書館より資料に基づき報告があり、会計監事の福島県立医科大学附属学術情報センターより監査報告がなされ、原案のとおり承認された。

(2) 令和 7 年度会費の徴収について

常任幹事館の福島大学附属図書館より令和 7 年度においても会費の徴収を見送ることについて提案があり、原案のとおり承認された。

(3) 令和 7 年度事業計画 (案)

常任幹事館の福島大学附属図書館より資料に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

(4) 令和 7 年度予算 (案)

常任幹事館の福島大学附属図書館より資料に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

(5) 当年度会計監事の選出について

常任幹事館の福島大学附属図書館より近隣の福島県立医科大学附属学術情報センターに依頼したいとの提案があり、原案のとおり承認された。

3 承合事項

(1) 電子書籍購入タイトルと紙の図書の購入タイトルの棲み分けについて

医療創生大学図書館より本件の提案があり、資料に基づき、提案理由の説明及び回答への御礼があった。

4 その他

(1) 次期年度幹事館について

議長より資料に基づき説明があり、奥羽大学図書館が担当することを確認し、同館よりあいさつがあった。また、本総会における次年度以降の開催方法と開催時期についても確認された。

さらに、常任幹事館の福島大学附属図書館より、以下の補足があった。

- ・令和8年度総会が10月開催となることについて、常任幹事館も確認している。
- ・第51回以降の幹事館については、総会の都度、ローテーションを確認する。

(2) 双葉町図書館の県内大学図書館間相互利用制度退会について

常任幹事館の福島大学附属図書館より資料に基づき報告があった。

(3) 福島県内図書館横断検索について

福島県立図書館より福島県内図書館横断検索について連絡があった。令和5年から当協議会のWebサイト上に福島県立図書館の福島県内図書館横断検索のリンクを設定しているが、今年度福島県立図書館のシステム更新があり、新しい横断検索になる。詳細が決まり次第常任幹事館へ連絡し、リンクを設定しなおす予定。

閉会

閉会后、令和7年度幹事館である会津大学情報センター附属図書館の見学が希望者（13名）に対して行われた。

第 32 回福島県内大学図書館連絡協議会実務者研修会報告

第 32 回福島県内大学図書館連絡協議会実務者研修会は、オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）との共催により、令和 7 年 12 月 5 日（金）、会津大学短期大学部を会場に「JPCOAR 地域ワークショップ@福島」をテーマとして開催された。申し込みは 11 機関 16 名で、当日の参加人数は 10 機関 15 名であった（1 名は荒天により欠席）。

講師として、東京歯科大学図書館課長 阿部 潤也 氏、東京科学大学図書館情報管理課図書館基盤グループ主任 佐藤 亮太 氏、新潟大学学術情報部学術情報管理課オープンアクセス係 藤原 幸生 氏をお招きし、講演や実習、ワークショップを実施いただいた。

研修会終了後は、会津大学短期大学部附属図書館の見学が行われた。

当日の実施要項及び講演資料は次ページ以降のとおり。

会津大学情報センター附属図書館
会津大学短期大学部附属図書館



研修風景

JPCOAR 地域ワークショップ@福島

(第 32 回福島県内大学図書館連絡協議会実務者研修会) 次第

日 時 令和 7 年 12 月 5 日 (金) 13:00~17:00

場 所 会津大学短期大学部 2 階 第一会議室

- 1 開会・事務連絡等 [13:00-13:05]
- 2 即時 OA 義務化と機関リポジトリの意義 [13:05-13:35]
講 師： 東京歯科大学図書館課長 阿部 潤也 氏
- 3 即時 OA 義務化におけるリポジトリ対応：査読済み学術論文のリポジトリへの登録と流通 [13:35-14:05]
講 師： 東京科学大学図書館情報管理課図書館基盤グループ主任 佐藤 亮太 氏
- 4 休憩 [14:05-14:15]
- 5 雑誌発表論文ポリシー確認の仕方 [14:15-15:15]
講 師： 東京科学大学図書館情報管理課図書館基盤グループ主任 佐藤 亮太 氏
- 6 休憩 [15:15-15:30]
- 7 グループワークショップ [15:30-16:30]
説 明： 東京歯科大学図書館課長 阿部 潤也 氏
- 8 JAIRO Cloud 困ったときの対応 [16:30-16:50]
講 師： 新潟大学学術情報部学術情報管理課オープンアクセス係 藤原 幸生 氏
- 9 開会・事務連絡等 [16:50-17:00]

即時OA義務化と機関リポジトリの意義

～「義務だから」なんてもったいない？オープンアクセスで世界を幸せにしよう～

東京歯科大学図書館 阿部 潤也

36 Slides

JPCOAR地域ワークショップ@福島 (福島県内大学図書館連絡協議会×JPCOAR)
2025年12月5日 (金)
@会津大学短期大学部

このコマの内容

2

現在の日本における機関リポジトリ状況の概観のために、リポジトリへの影響が大きい国のOA基本方針※（特に即時OA義務化）についておさらいしつつ、改めて機関リポジトリの意義を考えてみます。

また、本日のプログラムについての概観も行います。

シナリオ

- 1 「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」とは何か
- 2 それで、私たちは何をすればよいの？
- 3 JPCOARコミュニティの紹介
- 4 機関リポジトリの意義と大学図書館の役割

1

「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」とは何か

ゆっくり「国のOA基本方針」のおさらい（原文も見ながら）

5

意義からゆっくりにおさらいして見ます
（原文も一緒にみながら）

研究DX 内閣府



内閣府「研究DX（デジタル・トランスフォーメーション）ーオープンサイエンス：学術論文等のオープンアクセス化の推進、公的資金による研究データの管理・利活用などー」
（最低限見るとよいものを時系列順にした。今日は下記オレンジ色の2つの本文PDFも見ながら）

- 公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方（令和5年10月 総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員） 今日「基本的な考え方」と呼びます
- ↓
- 学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針（令和6年2月 統合イノベーション戦略推進会議決定） 今日「国のOA基本方針」と呼びます
- ↓
- 学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針の実施にあたっての具体的方策（令和6年10月 改正 関係府省申合せ） 今日「具体的方策」と呼びます

ゆっくり「国のOA基本方針」のおさらい（原文も見ながら）

6

冒頭1：オープンアクセスの意義

科学技術は、社会課題を成長のエンジンへと転換し、持続的な経済成長を実現する原動力であり、同時に、感染症や自然災害等の脅威について国民の安全・安心を確保するものであり、**国家の生命線**となっている。

学術論文の発表等を通じた**オープンアクセスの推進**により、研究の進展や社会実装につながり、**科学技術の研究成果は国民に広く還元**されている。

1/3ページ

冒頭 2：策定経緯

科学技術・イノベーションに関する成果の流通の重要性に鑑み（中略）
総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員等において検討

G7広島サミット及びG7仙台科学技術大臣会合（R5.5）

↓
「統合イノベーション戦略2023」において「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた国の方針を策定する」が明記

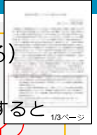
↓
「公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方」（R5.10.30 総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員）



理念（「基本的な考え方」（後述）の理念から引用されている）

- 第1に、公的資金によって生み出された研究成果を広く国民に還元するとともに、その共有・公開を通じて自由な利活用を図り、科学技術、イノベーションの創出及び地球規模課題の解決に貢献すること。
- 第2に、大学等における利用可能な雑誌数や論文発表数を減らすことなく、かつ、研究活動に負の影響を与えることなく、我が国全体での購読料及びAPCを含む経済的負担を適正化すること。
- 第3に、我が国の研究力を踏まえた世界に対する研究成果の発信力の向上を図ること。

（一部話者が省略形に修正）



方針の本体

- (1) 公的資金による学術論文等の即時オープンアクセスの実施
- (2) グローバルな学術出版社等（学術プラットフォーム）との交渉
- (3) 学術論文及び根拠データの機関リポジトリ等の情報基盤への掲載
- (4) 研究成果発信のためのプラットフォームの整備・充実
- (5) 国際連携
- (6) 実施体制その他の事項

「国のOA基本方針」は様々な対象に向けてに書かれている。（国、資金配分機関(JSPS等)、研究DXプラットフォーム整備・運営主体(NII, JST等)、大学等その他機関など）
大学（特に図書館）に関係するところはどこなの？
遡って「基本的な考え方」を見るともう少しわかりやすい



「公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方」（「基本的な考え方」）
項番3. 即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針

- 国及び関係機関（資金配分機関（FA）、研究DXプラットフォーム4整備・運営主体、大学等その他機関）は互いに連携し、オープンアクセスの推進に向けた施策を着実に実行する。

大学は「関係機関」の一部として表現されている

「基本的な考え方」

項番3. 即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針
（「関係機関」の部分は4点 うちリポジトリ関連は2点）

- 国及び関係機関は、大学等における機関リポジトリの価値向上、成果発信力の強化を行う。
- 国及び関係機関は、論文及び根拠データの機関リポジトリ等の情報基盤への掲載を通じて、誰もが自由に利活用可能となることを目指す。
- 国及び関係機関は、学術論文の定量的な評価のみによらない新たな評価体制の確立を目指す。主に大学全体で取り組むこと
- 国及び関係機関は、オープンアクセスは研究成果の発信力の向上等のために行うものであることを認識し、既存の研究費や採択件数を圧迫しないように努める。主に大学全体で取り組むこと

「国のOA基本方針」に戻って 本体

- (1) 公的資金による学術論文等の即時オープンアクセスの実施
- (2) グローバルな学術出版社等（学術プラットフォーム）との交渉
- (3) 学術論文及び根拠データの機関リポジトリ等の情報基盤への掲載
- (4) 研究成果発信のためのプラットフォームの整備・充実
- (5) 国際連携
- (6) 実施体制その他の事項

- 大学（特に図書館やリポジトリ運営者）が為すべきことは主に（3）
- ただし、（1）は、競争的研究費を受給する者（≒研究者）への義務であるが、（3）の前提となるため理解しておく

（１） 公的資金による学術論文等の即時オープンアクセスの実施

- 公的資金のうち2025年度から新たに公募を行う即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費を受給する者に対し、該当する競争的研究費による学術論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ等の情報基盤への掲載を義務づける。
- 即時オープンアクセスの対象は、査読付き学術論文（電子ジャーナルに掲載された査読済みの研究論文）及び根拠データとする。

（一部話者が省略など）

誰が？ 科研費等を受給する研究者は

何を？ その研究成果である学術論文と根拠データを

どうする？ 所属機関のリポジトリで公開する

（話者による超簡略系）

誰が？ 科研費等を受給する研究者は

日本学術振興会（JSPS）
科学研究費助成事業
科学技術振興機構（JST）
戦略的創造研究推進事業 ※一部除く 創発的研究支援事業
日本医療研究開発機構（AMED）
戦略的創造研究推進事業 （革新的先端研究開発支援事業）

【おまけ】
自大学の研究者はどれくらい対象？
（例えば以下のサイトから件数などがわかる）

科研費データ
https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html
研究者が所属する研究機関別 採択件数・配分一覧（令和7年度）
https://www.jsps.go.jp/file/storage/kaken_27_kdata_g_3438/3-4-1_j7_0516.pdf

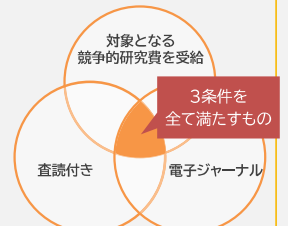
「学術論文等の速期オープンアクセスの実現に向けた基本方針の実施にあたっての具体的な方策（令和6年10月改正 関係府省中心会）」より

何を？ その研究成果である学術論文と根拠データを

【対象となる論文と根拠データ】

電子ジャーナルに掲載された査読済みの研究論文
およびその根拠データ

- ジャーナルの執筆要領、出版規程等において、公表が求められる根拠データ
- 公表を前提としていないデータは含まない



「電子ジャーナルに関する学内向け説明資料：素材集（JUSTICE）」より

どうする？ 所属機関のリポジトリで公開する

- 私たちが貢献できるところ。
- 本日はこの部分のお話しです。（３）の部分です

（３） 学術論文及び根拠データの機関リポジトリ等の情報基盤への掲載

学術論文及び根拠データの機関リポジトリ等の情報基盤への掲載を通じて、誰もが自由に利活用可能となることを目指す。

ここから先は
「グループワークショップ」
 で一緒に悩みを共有、力をあわせて悩みを解消

さらには、そのあとのコマの
「JAIRO Cloud困ったときの対応」
 で！

4

機関リポジトリの意義と大学図書館の役割

ここから
 特に話者私見です

改めてオープンアクセスの意義とは？

義務化はされたけど、国のOA基本方針の目的も

「公的資金によって生み出された研究成果を広く国民に還元するとともに、**その共有・公開を通じて自由な利活用を図り、科学技術、イノベーションの創出及び地球規模課題の解決に貢献すること。**」

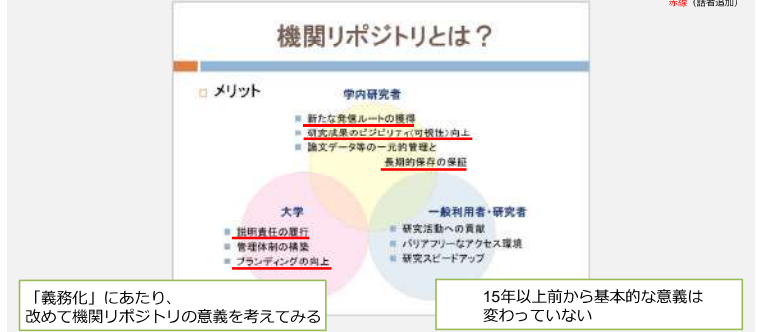
であり、「義務だから」ではもったいない！

大学図書館にとっても貢献度を高められるチャンス！

改めて機関リポジトリの意義とは？

機関リポジトリの意義（基本）

「機関リポジトリ概論（平成22(2010)年度学術ポータル担当者研修）」より
 添録（話者追加）



大学図書館関係の最新政策文書では

オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について (審議のまとめ)

(文部科学省科学技術・学術審議会情報委員会オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会(令和5年1月25日))

1丁目1番地に以下の記述

(1) 今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や**新たなサービス**について

【ポイント】
 大学図書館は、今後の教育・研究における利用に適した形式で既存のコンテンツのデジタル化と、**学術研究等の成果として今後産み出されるコンテンツのオープン化を進める。**(以下略)

大学図書館関係の最新政策文書でも

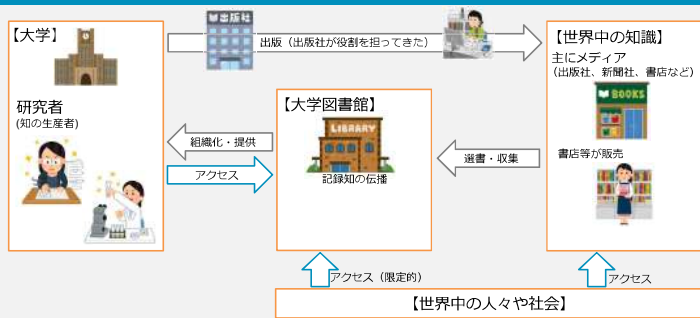
さらに「大学図書館の本質的認識」として

大学図書館は、情報やデータ、知識が記録されることを前提として、大学における教育・研究の文脈においてそれらの発見可能性を高め、アクセスを保証し、また利活用できるようにすることで**継続的に知が再生産されるようなシステムを維持するために存在する**

とも記載されている。

「コンテンツのオープン化」の意義を考えるにあたって、改めて「知が再生産されるようなシステム」を振り返ってみる

「知の再生産システム」の中での大学図書館（過去：デジタル革命前）³¹



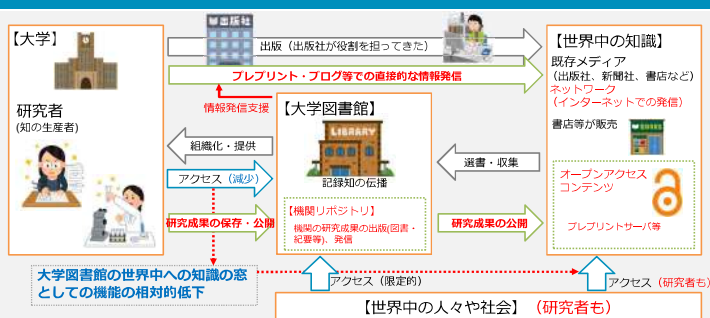
大学図書館は、主に大学構成員への世界中への知識の窓として機能してきた

「知の再生産システム」の中での大学図書館（過去：デジタル革命前）³²



大学図書館は、主に大学構成員への世界中への知識の窓として機能してきた

「知の再生産システム」の中での大学図書館（現在：デジタル革命後）³³



大学図書館は、世界中への知識発信の窓としても機能する

デジタル・ライブラリー × 電子と紙のハイブリッド ○ 知識の伝播と発信のハイブリッド

「知の再生産システム」の中での大学図書館（現在：デジタル革命後）³⁴



大学図書館は、世界中への知識発信の窓としても機能する

デジタル・ライブラリー × 電子と紙のハイブリッド ○ 知識の伝播と発信のハイブリッド

機関リポジトリの意義と可能性³⁵

大学図書館は

「知が再生産されるようなシステムを維持するために存在する」

× オープン化による図書館の中抜き（役割の相対的低下）

○ 世界中への知識発信の窓として無限大な貢献可能性

昔も今も図書館は「知の再生産システム」において重要な役割（読みたい人に、読みたい知識を届ける。その可能性はむしろ増大している）

デジタル化とオープン化が加速度的にすすんでいる今、我々がさらに貢献する可能性が増大している。

機関リポジトリは世界中への知識発信の窓として「知の再生産システム」の重要な役割を担い、科学の発展に貢献

本日の目標³⁶

1. 「国のOA基本方針」に対応するため、また、機関リポジトリの本来の意義に対応できるような知識を吸収する。
2. 新しいサービスであり、コミュニティの相互扶助が重要です。JPCOARの相互扶助のメニューを把握していただけたら。
3. 本日参加したみなさんと悩みを共有したり、少しでも解決できることを目指す。
4. 今後のコミュニティでの相互扶助に繋がれば

即時OA義務化における リポジトリ対応： 査読済み学術論文の リポジトリへの登録と流通

イベント運営作業部会 佐藤亮太（東京科学大学）

2025年12月05日 JPCOAR地域ワークショップ@福島
（第32回福島県内大学図書館連絡協議会実務者研修会）

本講の内容

1. 即時OA義務化に対応するには
2. 研究成果の公開と流通
 - ① NII-RDCとは
 - ② リポジトリ登録パターンとフロー
 - ③ 根拠データの登録
3. 参考：登録業務のお役立ち情報

2

即時OA義務化に対応するには

1. 即時OA義務化に対応するには 誰が・何を・どうする？

誰が？ 科研費等を受給する 研究者は

何を？ その研究成果である
学術論文と根拠データを

どうする？ 所属機関のリポジトリで公開する

（先ほどの説明の再掲）

4

即時OA義務化に対応するには

誰が：科研費等を受給する研究者は
“基本方針”で対象となる競争的研究費

- ◆ 対象
 - ◆ 科学研究費助成事業（JSPS）
 - ◆ 戦略的創造研究推進事業（JST、AMED）
AMEDでは「革新的先端研究開発支援事業」
 - ◆ 創発的研究支援事業（JST）
 - ◆ 期間
 - ◆ 2025年度から新たに公募を行う競争的研究費
 - ◆ **2024年度以前に公募された競争的研究費制度は義務化の対象に含まない**
- 「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針、及び学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針の実施にあたっての具体的な方策に関するFAQ（令和6年10月8日更新）」より
https://www8.cao.go.jp/cstp/oa_houshin_faq.pdf

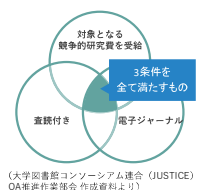
5

即時OA義務化に対応するには

何を：その研究成果である 学術論文と 根拠データを

“基本方針”で対象となる研究成果

- ◆ 学術論文
 - ◆ **電子ジャーナルに掲載された査読済みの研究論文**
 - ◆ オンラインで公開されたものであれば **学内紀要論文も対象に含まれる**
- ◆ 根拠データ
 - ◆ 掲載電子ジャーナルの執筆要領、出版規程等において、**透明性や再現性確保の観点から必要とされ、公表が求められる**研究データ
 - ◆ Supplemental Data等の公表を前提としているデータであり、査読の過程等で求められるデータ等 **公表を前提としていないデータは含まない**



6

即時OA義務化に対応するには



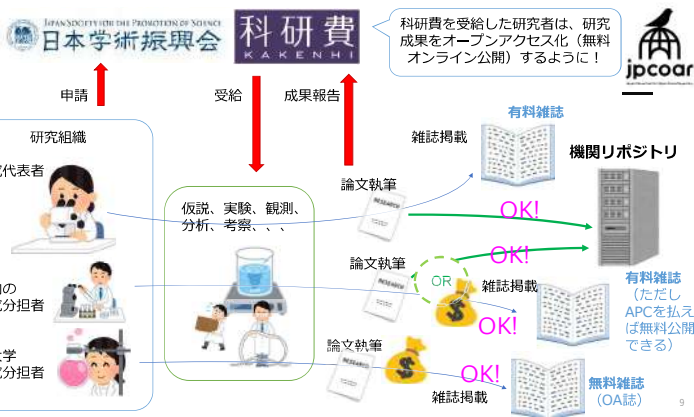
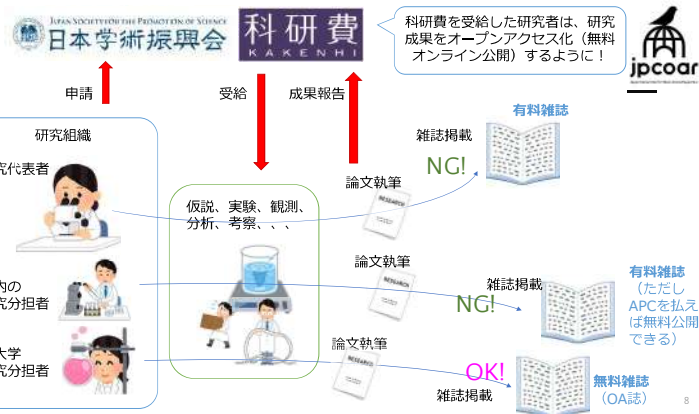
主に対象となるのは、Gold,Bronze,DiamondOA以外の論文 (=Green OA)

Gold OA ジャーナルでの論文出版によるOA		Green OA セルフアーカイビング		Bronze OA
フルOA ジャーナル	ハイブリッド ジャーナル	機関リポジトリ ●●大学のリポジトリ	分野リポジトリ プレプリントサーバ PubMedCentral, arXiv, bioRxiv, Jxivなど 近年急激に増加	出版社サイトでも無料公開されているが、OAのライセンスが付与されていない論文
<ul style="list-style-type: none"> ● APCが必要 ● ハイブリッドは購読料との二重払い? ● 可視性が高い→より大きいインパクト ● CCライセンスでの公開→著者に著作権が留保される 	<ul style="list-style-type: none"> ● 著者の費用負担なし ● 出版社の著作権ポリシーにより、多くは著者最終稿・エンバゴありでの公開 ● 大学の責務・セーフティネットとして、研究成果を蓄積・公開 ● 質保証の点は、最終的に出版社版で担保 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究機関、公的助成機関等が資金提供することにより、著者や読者が費用を負担することなくOAにするもの 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究機関、公的助成機関等が資金提供することにより、著者や読者が費用を負担することなくOAにするもの 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究機関、公的助成機関等が資金提供することにより、著者や読者が費用を負担することなくOAにするもの

Development Open Access Initiative:
https://www.bu.ac.jp/development/openaccessinitiative/

APC: Article Processing Charge. 論文をOA出版するために、著者が出版社に支払う論文出版料。ハイブリッドジャーナルでは、30万円〜40万円/年/刊の相場率が多い

『電子ジャーナルに関する学内向け説明資料：素材集 (JUSTICE)』より 7



即時OA義務化に対応するには



どうする：所属機関のリポジトリで公開する

- ・リポジトリ担当がやること
- ・対象：公開を義務付けられた研究成果を
- ・方法：機関リポジトリ上で公開し
- ・結果：メタデータを流通させる

即時OA義務化に対応するには



学術論文及び根拠データをNII Research Data Cloud(RDC)上で

検索できるようにする必要がある

そのためには・・・

- ・ **機関リポジトリ**へ登録
- ・ 分野別リポジトリ等へ登録
- ・ 資金配分機関の実績報告に識別子を登録
- ・ JxivやGRANTS Dataに登録

1. 機関リポジトリに、OAになっていない雑誌発表論文を登録する
2. NII RDC上で学術論文及び根拠データを検索できるようにする
= IRDBにきちんとハーベストされるようにする

(参考) 『学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針』
(総合イノベーション戦略推進会議 令和6年2月18日決定) の実施にあたっての具体的な方針 11
https://www.jpcoar.ac.jp/csr/openaccess/06_02/11basic.pdf

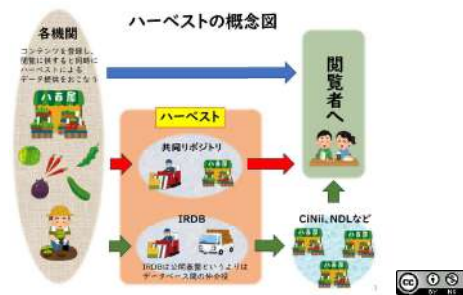
2. 研究成果の公開と流通 NII RDC上? ハーベスト? IRDB?



NII研究データ基盤（NII Research Data Cloud：NII RDC）の概要 <https://rcos.nii.ac.jp/service/>

- ・機関リポジトリに登録する場合
 - ・CiNii Researchで検索できればよい
 - IRDBに（条件に適した形で）メタデータを「ハーベスト」させればよい
 - ハーベストされるように、条件に適した形で機関リポジトリに登録して公開すればよい

- ・機関リポジトリに登録したアイテムのメタデータを、世界中のデータベースで利用できるようにすること。
 - ・世界中のデータベース…国立国会図書館、文献情報データベース（CiNii Research等） etc...
- ・適切なメタデータを付与することで、ハーベストによってメタデータが流通した際に、世界中のデータベースでアイテムの発見可能性が上がる。



出典：伊東, 洋輔. (2024.1). ハーベストの概略とIRDBの基本的な活用. <https://doi.org/10.34477/0002000349> (参照2025-08-21)

では、担当者としてリポジトリに登録していこう。ところで、出版社に掲載された論文を勝手にリポジトリに登録していいの？

リポジトリと著作権

前提として、著作権者の許諾を得ずにリポジトリ登録を行ってはいけない

※学術論文の場合、著者から出版者（学会・出版社）に著作権が譲渡される場合が多数

**出版者が定める条件を満たすことで
多くの学術論文はリポジトリ登録が可能**

出版者の著作権ポリシーを参照して確認する



著作権法 第30条
1. 著作権者は、他人に対し、その著作物の利用を許諾することができる。
2. 前項の許諾を得た者は、その許諾に係る利用方法及び条件の範囲内において、その許諾に係る著作物を利用することができる。

「即時オープンアクセスに備える」シリーズセミナー その1 学術論文の権利確認方法って？①よくあるパターン講義編」より

- 出版社・学協会の**著作権ポリシー**を確認する

次の講義
「雑誌発表論文ポリシー確認の仕方」
でご説明します。

前提となる考え方 機関リポジトリでの論文登録は...

著者による権限行使

- 機関リポジトリへの論文登録は著者が主体的意志で行うこと
○：著者が図書館へ登録を申請する、申し込む
×：図書館が著者の許諾を得て登録する
- 出版者に著作権ポリシーを尋ねる際も、著者が公開を希望していることが大前提
図書館は著者の代理で問い合わせしている
- 共著者の合意を得ることも大事
登録申請者（著者）に、予め共著者の同意を得てもらうことが一般的

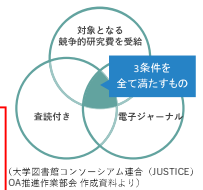
「即時オープンアクセスに備える」シリーズセミナー その1 学術論文の権利確認方法って？①よくあるパターン講義編」より

再掲

即時OA義務化に対応するには

何を：その研究成果である学術論文と根拠データを
“基本方針”で対象となる研究成果

- ◆ 学術論文
 - ◆ **電子ジャーナルに掲載された査読済みの研究論文**
 - ◆ オンラインで公開されたものであれば**学内紀要論文も対象に含まれる**
- ◆ 根拠データ
 - ◆ 掲載電子ジャーナルの執筆要領、出版規程等において、**透明性や再現性確保の観点から必要とされ、公表が求められる研究データ**
 - ◆ Supplemental Data等の公表を前提としているデータであり、査読の過程等で求められるデータ等**公表を前提としていないデータは含まない**



(大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) OA推進作業部会 作成資料より)

■根拠データの登録

- 「研究データ」とは・・・
公的資金による研究開発の過程で生み出される**全てのデータ**
- 「根拠データ」とは・・・
学術論文の**査読にあたり**、研究公正の観点から、実験結果等の**根拠となる研究データ**

→即時OA義務対象になっているのは「**根拠データ**」の方！

【参考】
「学術論文の即時オープンアクセスの推進に向けた基本方針」(総合イノベーション戦略推進委員会「学術論文の即時OA推進」)
https://www.oea.ac.jp/eta/committee/1_021/roadmap.pdf
学術論文による研究データの管理・利用に関する 基本方針の考え方
https://www.oea.ac.jp/eta/

■根拠データの登録方法

- 様式 (A)：「研究データ」として、個別の1アイテムとして登録する。
- 様式 (B)：公開する主アイテムの一部として、論文をととも「根拠データ」のファイルを付属させて公開する。

■CiNii Researchでの推奨 <2025/11/26 修正>

1. 研究データは様式 (A) を用いてメタデータと共に研究データを登録するのが望ましい。
2. 論文の一部として公開する必要がある、せざるを得ない時は様式 (B) で、論文と(論文のメタデータと)ともに研究データを登録する。

【参考】CiNii Research「研究データ」「根拠データ」の登録について
https://support.nii.ac.jp/ai/17/researchdata_hovet

■根拠データの登録について

詳しくは先日公開されたこちらの資料をご参照ください。

「機関リポジトリへの研究データ登録ガイドライン」

https://jpcoar.org/system/wp-content/uploads/2025/09/research_data_registration_guideline.pdf

■根拠データの登録について

ファイルサイズに注意

→例)JAIRO Cloudに登録できるファイルサイズには制限があります。

おおよそ**100MBから120MB程度**が目安

ファイルサイズが大きくなる場合は、別の大容量サーバーにデータを保存して、リンクするなどの工夫が必要です。

皆どうやって対応してるの？

[2025年図書館総合展\(10/23\)](#)

[フォーラム1「OA義務化、悩んで当然。だからシェアするリポジトリの試行錯誤」](#)

フォーラム1「OA義務化、悩んで当然。だからシェアするリポジトリの試行錯誤」 (10/23-12/4)

開催日時: 2025年10月23日(木) 14:00-17:00 | <http://www.jpcoar.org/2025/>

セッション	講師	会場	参加費
JAIRO Cloud (WEKO3) 基本マニュアル	田中 浩二 (JAIRU)	JAIRO Cloud	無料
JAIRO Cloud (WEKO3) 基本マニュアル	田中 浩二 (JAIRU)	JAIRO Cloud	無料
JAIRO Cloud (WEKO3) 基本マニュアル	田中 浩二 (JAIRU)	JAIRO Cloud	無料
JAIRO Cloud (WEKO3) 基本マニュアル	田中 浩二 (JAIRU)	JAIRO Cloud	無料
JAIRO Cloud (WEKO3) 基本マニュアル	田中 浩二 (JAIRU)	JAIRO Cloud	無料
JAIRO Cloud (WEKO3) 基本マニュアル	田中 浩二 (JAIRU)	JAIRO Cloud	無料

3. 参考：登録業務のお役立ち情報

JCの操作に戸惑っているとき

[JAIRO Cloud \(WEKO3\) 操作説明会用教材動画](#)



マニュアルのトリコレ(とりあえずこれ)

[JAIRO Cloud \(WEKO3\) 基本マニュアル](#)

こんな時に便利！

- JAIRO Cloudの操作を確認したいとき

[JPCOARスキーマガイドライン](#)

こんな時に便利！

- メタデータの入力ルールを確認したいとき





[ハーベスト仕様 | IRDB](#)

こんな時に便利！

- ハーベストエラーが出てエラーチェックの仕様を確認したいとき
- CiNii ResearchやNDL, JaLCとの連例の仕様を確認したいとき



31



- 第4回JPCOAR Webinar「IRDB-カラクリと役割：どこから・どこへ・どのように-」
<https://jpcoar.org/support/event-archive/jpcoar-webinar-04/>
- 機関リポジトリ新任担当者向け研修資料
<https://jpcoar.org/support/repository-abc/#a1>

32



講義「JAIRO Cloud困った時の対応」で
詳しくご説明します！

33

雑誌発表論文 ポリシー確認の仕方

イベント運営作業部会 佐藤亮太（東京科学大学）

2025年12月05日 JPCOAR地域ワークショップ@福島
(第32回福島県内大学図書館連絡協議会実務者研修会)

1

本講の内容

- ポリシー確認の基本的な考え方
- 用語の確認
- 学会・出版社ポリシーの確認業務フロー
- 和雑誌ポリシーチェック実演&実習
- 洋雑誌ポリシーチェック実演&実習

2

ポリシー確認の基本的な考え方

3

ポリシー確認の基本的な考え方

【リポジトリ登録にあたっての前提】

著作権者の許諾なしにリポジトリ登録を行ってはいけない

【学術雑誌論文の場合】

学術論文は、著者から出版者（学会や出版社）に著作権が譲渡されている場合が多い

4

ポリシー確認の基本的な考え方

問題の在処

- 従来の図書館活動と著作権との係わり
 - たとえば、著作権法第三十一条
 - **図書館等**における複製
 - 利用者へ一部を1部、保存、図書館間
- 機関リポジトリ
 - セルフ・アーカイビング＝**著者による**権利行使
 - 機関リポジトリ(図書館)はプラットフォーム
 - 著作権の所在(通常、出版社)は問題ではない。
 - 相手にするのは著作権譲渡契約の内容

平成33年度学術ポータル委員会研修
機関リポジトリと著作権 杉田政博・堀越祥康（北海道大学附属図書館）
https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/2020-03/tx19_4.pdf

5

ポリシー確認の基本的な考え方

刊行元方針の見つけ方

- **ポリシー確認ツール**には間違いがある。必ず
原典にあたること
- 自分＝論文投稿者で、自分にはどんな権利
があるのか、という立場・観点で探すとよい
 - 出版社トップページ等の「Terms & Conditions」
や「Copyright」は、閲覧者・購読機関向けのもの。
 - 個々の雑誌ページの「Guide for authors」や
「Submission」の類のページを見る。たいてい
Copyright Transfer Formがダウンロードできる。

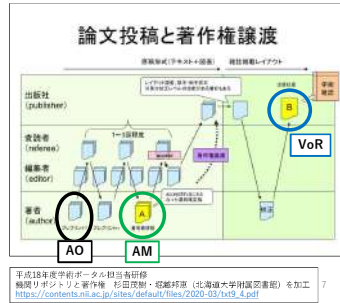
平成33年度学術ポータル委員会研修
機関リポジトリと著作権 杉田政博・堀越祥康（北海道大学附属図書館）
https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/2020-03/tx19_4.pdf

6

用語の確認



- **AO** (Author's Original
いわゆる投稿原稿)
- **AM** (Accepted Manuscript いわゆる著者最終稿)
- **VoR** (Version of Record
いわゆる出版社版)
- **Embargo** (公開抑止期間)
※出版社によって呼び方が若干異なることもあります



用語の確認 (参考)



【出版社ごとのAMの呼び方】

- Elsevier : [Accepted manuscript](#)
- WILEY : [Accepted \(peer-reviewed\) version](#)
- Springer Nature : [Accepted manuscripts \(AM\)](#)
- American Chemical Society : [Accepted Work](#)
- Taylor & Francis : [Accepted Manuscript \(AM\)](#)
- Oxford University Press : [Accepted Manuscript \(AM\)](#)
- Royal Society of Chemistry : [accepted manuscript version of articles](#)
- IOP Publishing : [Accepted Manuscript](#)
- Sage : [Accepted manuscript](#)



学会・出版社ポリシーの確認業務フロー

学会・出版社ポリシーの確認業務フロー



【確認手順】

- ① CCライセンス付与のオープンアクセス論文か確認
- ② 公開許諾ポリシー確認ツールで概要を確認
[「Open policy finder](#) (旧SHERPA/RoMEO) 」
[「学協会著作権ポリシーデータベース \(SCPJ\) 」](#)
- ③ 学会・出版社サイトでの最終確認
[「Author Rights \(著者の権利\) 」](#)
[「Open Access Policy」](#)
[「Self-archiving policy」](#)
[「投稿規定」](#)
[「Copyright Transfer Form \(著作権譲渡契約書\) 」](#)

これらの言葉に注目して、条件を探す

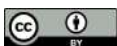
学会・出版社ポリシーの確認業務フロー



① CCライセンス付与のオープンアクセス論文か確認

CCライセンス付与のオープンアクセス論文であれば、CCライセンスに基づいて、VoR (出版社版) の登録が可能 (著作権ポリシーの確認をしないで登録が可能)

例) CC BY



学会・出版社ポリシーの確認業務フロー



※CCライセンス (クリエイティブ・コモンズ・ライセンス) とは

- 著作権者が自分の著作物の利用条件を明確に示すためのライセンス
 - 4つの条件を組み合わせた6種類のライセンスがある
 - 表示 (BY) : 作品のクレジットを表示すること
 - 非営利 (NC) : 営利目的での利用をしないこと
 - 改変禁止 (ND) : 元の作品を改変しないこと
 - 継承 (SA) : 元の作品と同じ組み合わせのCCライセンスで公開すること
- 条件の範囲内であれば、著作者の許諾を得ることなく著作物を利用することができる (一般的には、機関リポジトリは営利目的に該当せず、内容の改変も行わない)
<https://creativecommons.jp/licenses/>



※大学の端末からアクセスすると、機関購読契約により、本文PDFを確認できてしまう論文がありますが、CCライセンスが付与されていない場合は、VoR (出版社版) のリポジトリ登録は、基本的には行えないので注意



②公開許諾ポリシー確認ツールで概要を確認

◆学協会著作権ポリシーデータベース (SCPJ)

- ◆ JPCOARが運用しておりGoogle Spreadsheetで公開している検索ツール「SCPJ Search」(Google Looker Studio)
<https://lookerstudio.google.com/reporting/36acdd65-aacc-4ade-beb5-b9e129e63c52>
- ◆ 国内の学協会等の著作権ポリシーをタイトル毎に確認できる
- ◆ 島根大学によりISSN、NCIDによる確認ツールも公開されている
https://app.lib.shimane-u.ac.jp/policy_checker/scpj.php

◆Open policy finder (JISHERPA/RoMEO)

- ◆ <https://openpolicyfinder.jisc.ac.uk/>
 - ◆ 英国の非営利組織であるJISCにより運用されている
 - ◆ 海外のプラットフォームに掲載された学術誌の著作権ポリシーを確認できる
- (注意点) ポリシー確認ツールを過信してはいけない

13



③学会・出版社サイトでの最終確認

- ◆ 刊行誌全体に共通する「Author Rights (著者の権利)」や「Open Access Policy」、「Self-archiving policy」、「投稿規定」などで最新の状況を確認
- ◆ ウェブサイトで確認できない場合は、直接問い合わせる問い合わせの際は、著者に代わって問い合わせていることを伝える
- ◆ 「Copyright Transfer Form (著作権譲渡契約書)」がダウンロードできる場合はそちらを確認してもOK

14

和雑誌ポリシーチェック
実演 & 実習



ポリシーチェック実演 (和雑誌)



和雑誌のポリシーを確認してみます。

西野 辰哉 (2016) ある地方都市における高齢者の日常生活圏域の実態とその圏域間比較. 日本建築学会計画系論文集, 81(728) : 2117-2127
<https://doi.org/10.3130/aija.81.2117>

◆学協会著作権ポリシーデータベース (SCPJ) (Google Spreadsheet)
<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Qk8WnI8JK9SGS7qpyH1Z705jXMITJ6SBSr03IV7Q/edit?gid=0#gid=0>

◆学協会著作権ポリシーデータベース (SCPJ) (Google Looker Studio)
<https://lookerstudio.google.com/reporting/36acdd65-aacc-4ade-beb5-b9e129e63c52>

◆日本の学協会の著作権ポリシー確認ツール (島根大)
https://app.lib.shimane-u.ac.jp/policy_checker/scpj.php

15

16

ポリシーチェック実演



ポリシーチェック実演



17

18

ポリシーチェック実演



- SCPJ (Google Spreadsheet)
- SCPJ Search (Google Looker Studio)

19

ポリシーチェック実演

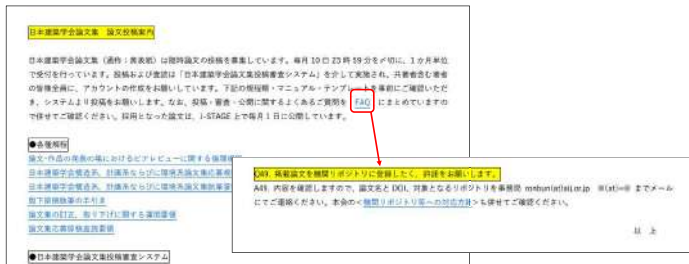


一般社団法人日本建築学会
> 論文投稿
> 日本建築学会論文集
<https://www.aij.or.jp/paper.html>

「論文投稿案内・FAQ」
「機関リポジトリ等への対応方針」
の2か所を頂に確認していく

20

ポリシーチェック実演



21

ポリシーチェック実演



22

ポリシーチェック実演



- 日本建築学会に、機関リポジトリでの論文登録の許諾申請 (論文名と DOI、対象となるリポジトリをメールで)
- 承認されたら、学会から示される条件 (非営利・著者の承諾あり・出典明記) を遵守しリポジトリに登録する。

23

ポリシーチェック実習 <和雑誌編>



24

ポリシーチェック実習



下記論文のポリシーチェックを行ってください。
(10分間:個人で確認→3分間:隣の人と意見交換)

林 賢紀, 瀬尾 崇一郎, 阪口 哲男(2016) 複合的な情報資源のLinked Open Data化における構造分析とスキーマ定義手法. 情報知識学会誌, 26(1): 11-28

<https://doi.org/10.2964/jsik.2016.001>

- 学協会著作権ポリシーデータベース (SCPJ) (Google Spreadsheet)
<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Qk8Wn8IK9SG57qagYH1Z7050XMT18S8Sg03IV-7Q/edit?gid=0&range=C1027>
- 学協会著作権ポリシーデータベース (SCPJ) (Google Looker Studio)
<https://lookerstudio.google.com/reporting/36acd65-aacc-4a4e-beb5-b9e129e63c52>
- 日本の学協会の著作権ポリシー確認ツール (島根大)
https://app.lib.shimane-u.ac.jp/policy_checker/scpi.php
- 「情報知識学会誌」投稿者の方へ
<https://www.jsik.org/>

ポリシーチェック実習

ヒント(どこから手をつけていいかわからないとき)



• CCライセンス付与のオープンアクセス論文でないかを確認してみましょう。

- 論文公開ページにアクセス <https://doi.org/10.2964/jsik.2016.001>
- PDFはダウンロードできる? (CCライセンスはある?)
- 著作権者は誰(どの団体)?

• 確認できたら紹介したツールを使ってポリシーチェックをしてみましょう。

- 学協会著作権ポリシーデータベース (SCPJ) (Google Spreadsheet)
<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Qk8Wn8IK9SG57qagYH1Z7050XMT18S8Sg03IV-7Q/edit?gid=0&range=C1027>
- 学協会著作権ポリシーデータベース (SCPJ) (Google Looker Studio)
<https://lookerstudio.google.com/reporting/36acd65-aacc-4a4e-beb5-b9e129e63c52>
- 日本の学協会の著作権ポリシー確認ツール (島根大)
https://app.lib.shimane-u.ac.jp/policy_checker/scpi.php

(参考) 確認結果一例



ポリシーチェック実演



ポリシーチェック実演



ポリシーチェック実演



ポリシーチェック実演



日本の学協会の著作権ポリシー確認ツール 実行結果

下記の結果は [SCC0](#) のデータを一時的に読み込んでいます。(SCC0のバージョン: 2025-09-04 22:00:00)

人件費	ポリシー	Title	出版権の権利	出版権者	公開権
202171430	Creative Commons 署名者が自らでも認められる権利を放棄する	署名者が自らでも認められる権利を放棄する	署名者が自らでも認められる権利を放棄する	署名者のWebサイト、雑誌リポジトリ、研究論文の掲載のWebサイト、または電子版アーカイブの構築を行うこと	署名者が自らでも認められる権利を放棄する

戻る (印刷)

ポリシーチェック実演



- エンバーゴ期間なしで、リポジトリ登録が可能
- 出版社版の登録が可能
- 出典表示が必要

洋雑誌ポリシーチェック 実演 & 実習



ポリシーチェック実演 (洋雑誌)



洋雑誌のポリシーを確認してみます。

Yanagawa, T., Itoh, K., Uwayama, J., Shibata, Y., Yamaguchi, A., Sano, T., Ishii, T., Yoshida, H. and Yamamoto, M. (2004). Nrf2 deficiency causes tooth decoloration due to iron transport disorder in enamel organ. *Genes to Cells*, 9: 641-651. <https://doi.org/10.1111/j.1356-9597.2004.00753.x>

- Open policy finder (IJSHERPA/RoMEO) <https://openpolicyfinder.jisc.ac.uk/id/publication/3682>

- Wiley Author Services : Author Compliance Tool <https://authorservices.wiley.com/author-resources/Journal-Authors/open-access/author-compliance-tool.html>

- Wiley Author Services : Self-Archiving <https://authorservices.wiley.com/author-resources/Journal-Authors/licensing/self-archiving.html>

ポリシーチェック実演



WILEY OnlineOpen | WileyOpen Access | Search | Log In | Register | My Account

LET'S spotlight the changemakers

Genes to Cells

Nrf2 deficiency causes tooth decoloration due to iron transport disorder in enamel organ

Yanagawa, T., Itoh, K., Uwayama, J., Shibata, Y., Yamaguchi, A., Sano, T., Ishii, T., Yoshida, H. and Yamamoto, M. (2004). *Genes to Cells*, 9: 641-651. <https://doi.org/10.1111/j.1356-9597.2004.00753.x>

Free Access – 無料公開されているコンテンツ
Full Access – 購読・契約によってアクセス権あり
Open Access – オープンアクセスで利用可能

ポリシーチェック実演



Nrf2 deficiency causes tooth decoloration due to iron transport disorder in enamel organ

Yanagawa, T., Itoh, K., Uwayama, J., Shibata, Y., Yamaguchi, A., Sano, T., Ishii, T., Yoshida, H. and Yamamoto, M. (2004). *Genes to Cells*, 9: 641-651. <https://doi.org/10.1111/j.1356-9597.2004.00753.x>

This is an open access article under the terms of the [Creative Commons Attribution License](#), which permits use, distribution and reproduction in any medium, provided the original work is properly cited.

© 2004 Blackwell Publishing Ltd

© 2004 Blackwell Publishing Ltd and John Wiley & Sons Australia, Ltd.

ポリシーチェック実演



<https://openpolicyfinder.iisc.ac.uk/>

37

ポリシーチェック実演



38

ポリシーチェック実演



39

ポリシーチェック実演



40

ポリシーチェック実演

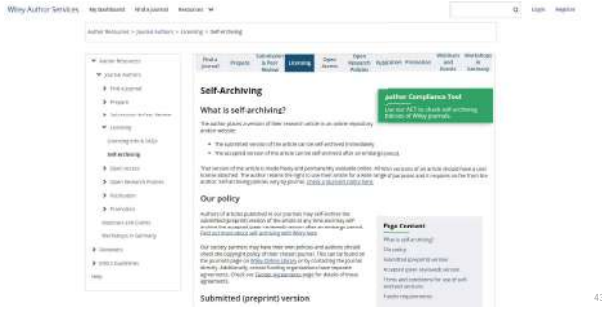


41

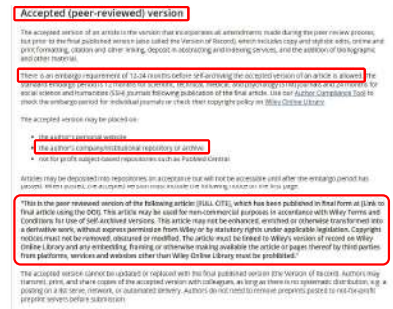
ポリシーチェック実演



42



43



44



- エンバーゴ期間：12か月
- 著者最終版の登録が可能
- Wileyの定める文言の表示が必要

ポリシーチェック実習

<洋雑誌編>

45

46



下記論文のポリシーチェックを行ってください。
 (15分間：個人で確認→3分間：隣の人と意見交換)

Shinohara, T., Sugiyama, S. Rejection of the legal aid by the Court of Arbitration for Sport in light of Article 6 of the European convention on human rights. *Int Sports Law J* (2025):1-10.

<https://doi.org/10.1007/s40318-025-00305-z>

- Open policy finder
<https://openpolicyfinder.jisc.ac.uk/id/publication/36191>
- Springer Nature : Open access policies for journals
<https://www.springernature.com/gp/open-science/policies/journal-policies>

47



- 和雑誌の時と同様に、論文を確認してみましょう。
 - 論文公開ページにアクセス
<https://doi.org/10.1007/s40318-025-00305-z>
 - PDFはダウンロードできる？(CCライセンスはある？)
 - 著作権者は誰(どの団体)？
- 確認できたら紹介したツールを使ってポリシーチェックをしてみましょう。
 - Open policy finder
<https://openpolicyfinder.jisc.ac.uk/id/publication/36191>

48

(参考) 確認結果一例

Shinohara, T., Sugiyama, S. Rejection of the legal aid by the Court of Arbitration for Sport in light of Article 6 of the European convention on human rights. *Int Sports Law J* (2025):1-10.

<https://doi.org/10.1007/s40318-025-00305-z>

- Open policy finder <https://openpolicyfinder.jisc.ac.uk/id/publication/36191>
- Springer Nature : Open access policies for journals <https://www.springernature.com/gp/open-science/policies/journal-policies>

ポリシーチェック実演

This is a preview of subscription content. Log in to check access.

Access this article

Log to view an institution →

Subscribe and save

- Springer from 10 chapters or articles per month from ¥12,485 / month
- Access and download chapters and articles from more than 3500 books and 2,500 journals
- Cancel anytime

Buy Now

Buy article PDF ¥4,980

Instant access to the full article PDF

Additional subscription →

ポリシーチェック実演

The International Sports Law Journal (ISLJ)

Optics with 12 months embargo & Publisher's Regular Science Service

Embargo 12 months

Conditions

Embargoed content must be accompanied with embargo date if it is published on any date.

This content is subject to Springer Nature reuse terms (see statements to accompany Access Open policy).

<https://openpolicyfinder.jisc.ac.uk/id/publication/36191>

ポリシーチェック実演

Embargo and restrictions on self-archiving of the AM

Platform	Embargo length (months)	Depositor of AM permitted to institutional or Funder repository after embargo, and author's own archiving repository
bioRxiv Preprint Journal	6 months	Yes
Preprint JMIR Publications	6 months	Yes
Preprint JMIR Publications	12 months	Yes
Preprint JMIR Publications	12 months	Yes

Authors are able to submit via the preprint publisher, which means that the published version of record will be immediately available on publication and can be shared under the same CC license terms applicable to the article.

Authors publishing in the Springer and Springer Nature journals that share the AM or their previously deposited preprint repository on condition that the embargo Springer Nature authors publishing articles in all Springer and Nature journals will automatically share their research articles peer-reviewed via our "Preprint" platform. This will allow authors and subscribers to provide fast and easy access for researchers through Preprint links, for further information, please visit our embargo page.

ポリシーチェック実演

- AMを登録する場合、12ヶ月のエンバゴ期間あり
- 出版者版掲載ページへのDOIリンク必要
- 適切な権利表記が必要

終わりに 参考ツール・資料のご紹介

(参考ツール)

- metadata_fetcher_by_DOI (国際農研 林賢紀さん作)
https://github.com/tzhaya/metadata_fetcher_by_DOI
- metadata_fetcher_by_DOI_ver_tsukuba.xlsm (筑波大学)
https://github.com/lzumiFujiwara/metadata_fetcher_by_DOI/tree/main

例)



DOIからUnpaywallのREST APIを検索→ISSNとOAの場合のライセンスを取得
→ISSNからSherpa Legacy APIを検索→OAポリシーが記載されたURLを取得
(あわせて「日本の学協会の著作権ポリシー確認ツール」経由で「学協会著作権ポリ
シーデータベース」(SCPJ)でのデータを取得)

55

56

(参考資料)

- 「『即時オープンアクセスに備える』シリーズセミナー その1 学術雑誌論文の権利確認方法って?①よくあるパターン講義編」
<https://jpcoar.org/support/repository-abc/>
(アクセス方法) JPCOARウェブサイト> サポート> リポジトリ業務を学ぶ> コンテンツの登録や外部システムとの連携・JPCOAR作成教材
※JPCOAR会員機関限定公開。JPCOAR会員機関には2025/8/18付メール「JPCOARウェブサイトの会員専用コンテンツについて」によりID・パスワードが通知されています。
- 宮原光「機関リポジトリと著作権,概論(平成22年度学術ポータル担当者研修講義資料)」
大澤頼重佐「機関リポジトリと著作権,実習(平成22年度学術ポータル担当者研修講義資料)」
中山貴弘「機関リポジトリと著作権,実習(平成22年度学術ポータル担当者研修講義資料)」
<https://contents.nii.ac.jp/hrd/portal/2010/result>
- 平野かおる「九州大学附属図書館におけるリポジトリ登録の実務:著作権調査を中心に」 第27回図書館総合展オープンアクセスリポジトリ推進協会主催フォーラム「OA義務化、悩んで当然。だからシェアするリポジトリの試行錯誤」資料
https://jpcoar.org/system/wp-content/uploads/2025/10/LibraryFair2025_1-04.pdf
(アクセス方法) JPCOARウェブサイト> サポート> 研修・イベントを見る> 2025年度> 第27回図書館総合展 オープンアクセスリポジトリ推進協会主催フォーラム/スピーカーズコーナー

※本資料はJPCOAR地域ワークショップ@群馬(2025年9月12日開催)の講義資料「雑誌発表論文ポリシー確認の仕方」
(作成:大石龍洋さん イベント運営作業部会(筑波大学))を基に作成したものです。

57

グループ ワークショップ

15:30～16:30

グループワークショップの流れ

時間目安	やること
15:30～15:35(5分)	自己紹介(所属・氏名・リポジトリ担当歴など)
15:35～16:10(35分)	事前課題をもとに各班内で困りごとや課題、その対応事例やアイデアの情報共有を行う。
16:10～16:15(5分)	困りごとや課題について、 <u>班内で解決できなさそうなこと、他の班の状況・コメントを聞いてみたいものをピックアップする。</u>
16:15～16:25(10分)	ピックアップした課題を全体で共有し、他班や講師から事例やアイデアをディスカッションする。(各グループ3分程度)
16:25～16:30(5分)	まとめ(ディスカッション続き)

グループワークショップの進め方

- 共有Googleドライブ内
→ 地域ワークショップ@福島共有用ドキュメント
→ **A～C班の各タブ**を作業メモとして使用
(報告の際は各タブを投影)
- 進行・メモ取り・全体への報告者etc…
→必要に応じて役割分担して進行
- 動きが止まった時は各グループのファシリテーター(JPCOAR作業部会)がサポートします
(ただし立場はみんな**対等**)

事前課題

- 自機関リポジトリソフトウェア
- 現在の登録コンテンツ状況
(GreenOAコンテンツあるなし含む)
- 現在自機関で困っていることや課題
- 自機関の即時OA義務化対応状況やその課題



JAIRO Cloud困ったときの 対応について

JPCOAR JAIRO Cloud作業部会
藤原 幸生 (新潟大学)

1



<p>自己紹介 (補足)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 所属 新潟大学学術情報部学術情報管理課 オープンアクセス係 ・ 経歴 2019.4- 入職 (ILL・ガイダンス (少し) 閲覧担当) 2023.8- リポジトリ担当 (情報基盤係→現係) JAIRO Cloud作業部会にも所属 	<p>JAIRO Cloud作業部会とは? 利用機関がJAIRO Cloudをより使いやすくするため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティの構築 (相互扶助の促進) ・ 関連情報の整備 ・ 操作マニュアル作成・操作説明会開催 ・ 問い合わせツールの見直しなどを行う <p>かつては、JAIRO Cloud移行支援も担当</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

JPCOAR JAIRO Cloud作業部会
藤原 幸生 (新潟大学)

2

目次

- ・ はじめに
- ・ 困った時の対応 (ツール) 一覧・個別紹介
 - [1] JAIRO Cloudサポートポータル *new!*
 - [2] 基本マニュアル *new!*
 - [3] JPCOAR JAIRO Cloud Community メーリングリスト
 - [4] JAIRO Cloudお問い合わせフォーム *new!*
 - [5] JAIRO Cloud操作説明会動画 (2024)
 - [6] JAIRO Cloud非公式まとめ
 - [7] JPCOAR Community Slack
 - [8] リポジトリ業務を学ぶ (JPCOAR Webサイト)
- ・ さいごに
- ・ 【参考】紹介したURLの一覧+α

資料中で★がついているツールは、困った時に特に利用してもらいたいツールです。



3

「困った時」とは

技術的な困った



結局どう操作すれば問題なく最低限登録できるのかを知りたい…
登録しようとしたら謎のエラーが出て先に進めない…
編集していたデータがロックされた (ページ未検出状態になった) …
他の機関ではこの操作をどうやっているんだろう…

心理的な困った



専門的な用語が多くてついていけない…
難しいシステムだと言われているけど自分がさわって大丈夫かな…
こんな初歩的な質問を投稿していいのかな…
引き継いだばかりで業務の流れを早く知りたい…



4

困る前に…操作時の心構え



- ・ エラーを恐れず、でもゆっくり落ち着いて操作しましょう。
- ・ エラーが出ても落ち着いてどこに原因があるのかを探してみましょう。
- ・ 間違えて登録してしまっても簡単に修正できます。落ち着いて登録したデータを再編集しましょう。
- ・ 一度に大量のデータを処理せず、最初のうちは1件ずつゆっくり処理しましょう。
- ・ わからないことは恥ずかしいことではありません。
- ・ Slackで他機関に聞いてみたりメーリングリストで問い合わせることも恥ずかしいことではなく、必ず親身に助けてくれるコミュニティがあります。遠慮はいりません。

5

技術的な困ったで大切なこと (JAIRO Cloud)



- ・ 現状のシステムをつくり的にやってしまうとエラーになる可能性が高い操作を避ける
 - Webブラウザの「戻る」ボタンの使用
 - Webブラウザの複数タブ・ウィンドウでログインして操作
- ・ アップデートに伴う制限事項は事前に確認して、エラーにつながる操作は避ける
 - リリースノートを確認
- ・ 今日の前にあるエラーやわからないことだけではなく、その前の過程 (**この日時にこうしたいと思ってこの操作を行ったらこうなった**) もできる限り明確にする

※問い合わせる時は、不具合の発生日時も聞かれます。システムの裏で動作のログを取っており、それを頼りにJAIRO Cloud事務局が調べますが、大まかな日時でもわからないと膨大なログから不具合につながった事象を特定することになり、解決に時間がかかってしまうことがあります。

6

困った時の対応一覧



	技術的な困った		心理的な困った
小分類	操作・機能がわからない	エラーが発生した	
初動対応	困っているのはどの操作・機能についてか明確にする	どんなエラーが見極める (登録画面で操作可能な入力内容を見直してみる)	遠慮せず、すぐに調べる・聞いてみる心を持つ
対応	[2] 基本マニュアル確認 [3-3] メーリングリストのアーカイブ検索 [5] 操作説明会の動画確認	(よくある5つの問い合わせの場合) [4] フォームから問い合わせ (その他のエラー・わからない場合) [3-1] メーリングリストまたは [7] Slackに投稿	JPCOAR Webサイト、資料を閲覧 (わからない用語は) [2] 基本マニュアルの用語集を確認
	[6] JAIRO Cloud非公式まとめを確認 (上記でわからない場合) [7] Slackに投稿	リリースノートの制限事項や最新の課題リストを確認 JAIRO Cloudに一時的な障害が発生していないかどうかメールやSlack等で確認	前任者や知り合いなど、まわりに聞ける人がいれば確認
	(仕様の確認に近いことなら) [3-1] メーリングリストに投稿	(ハーベストエラー) IRDBを確認してリポトリで修正	[7] Slackの初心者チャンネルに投稿

困った時の対応一覧



	技術的な困った		心理的な困った
小分類	操作・機能がわからない	エラーが発生した	
初動対応	困っているのはどの操作・機能についてか明確にする	どんなエラーが見極める (登録画面で操作可能な入力内容を見直してみる)	遠慮せず、すぐに調べる・聞いてみる心を持つ
対応	<div style="border: 2px solid blue; padding: 10px; font-size: 2em; font-weight: bold; color: blue;"> いろいろありますが…まずは 【1】 JAIRO Cloudサポート ポータルにアクセス！ </div>		
	[2] 基本マニュアル確認 [3-3] メーリングリストのアーカイブ検索 [5] 操作説明会の動画確認	(よくある5つの問い合わせの場合) [4] フォームから問い合わせ (その他のエラー・わからない場合) [3-1] メーリングリストまたは [7] Slackに投稿	JPCOAR Webサイト、資料を閲覧 (わからない用語は) [2] 基本マニュアルの用語集を確認
	[6] JAIRO Cloud非公式まとめを確認 (上記でわからない場合) [7] Slackに投稿	リリースノートの制限事項や最新の課題リストを確認 JAIRO Cloudに一時的な障害が発生していないかどうかメールやSlack等で確認	前任者や知り合いなど、まわりに聞ける人がいれば確認
	(仕様の確認に近いことなら) [3-1] メーリングリストに投稿	(ハーベストエラー) IRDBを確認してリポトリで修正	[7] Slackの初心者チャンネルに投稿

new! 【1】 JAIRO Cloudサポートポータル



<https://jpcoar.org/support/jairo-cloud/portal/>



- 「JAIRO Cloudの利用で困ったことがあった時、まずはここを見る」をコンセプトに、「基本マニュアル」のほか、様々なサポートツール・資料を紹介



new! 【2】 基本マニュアル (JAIRO Cloud)



<https://jpcoar.org/support/jairo-cloud/manual/>



- 操作別のマニュアルで、管理画面 (Administration) にある機能ごとに操作方法を説明しています。(2025/10に掲載先がJPCOAR Webサイトになりました)



【3-1】 JPCOAR JAIRO Cloud Community メーリングリスト



<https://jpcoar.org/support/communitytools/jpcoar-jairo-cloud-community-ml/>

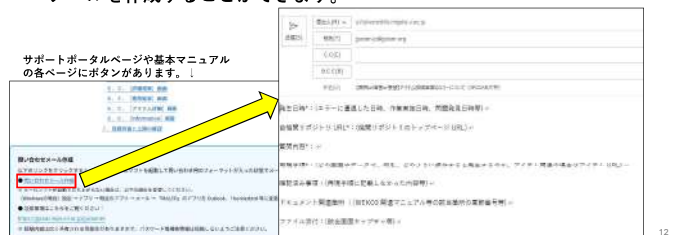


- JAIRO Cloudに関する質問・不具合解消依頼・システムの仕様確認については、このメーリングリストに投稿します。
- 投稿された問い合わせについては、JAIRO Cloud事務局が調査の上、回答を行います。
- また、問い合わせを見た他機関の有志がアドバイスをくれることもあります。
- メーリングリストの利用にはJPCOAR Webサイト (上記URL) から参加申請が必要です。
- ※登録されたメールアドレスから送信しないと、投稿することができない仕組みです。
- 投稿フォーマットに従って投稿します。スムーズな回答のためにご協力をお願いします。(次に投稿補助ツールを紹介します)
- 投稿から回答まで時間がかかる場合があります。落ち着いて気長にお待ちください。

【3-2】 JPCOAR JAIRO Cloud Community メーリングリスト投稿補助ボタン



- メーリングリストには投稿フォーマットに従って投稿する必要がありますが、このボタンを使用することで宛先とフォーマットが出てきた状態でメールを作成することができます。



[3-3] JAIRO Cloud Community メーリングリストアーカイブ検索



<https://lookerstudio.google.com/s/hRGBwddvlfC>

- メーリングリストに投稿された内容のアーカイブを検索・閲覧することができます。
- **自分が投稿する前に、過去似たような事例がないか探すのに便利！**



13

new! [4] JAIRO Cloudお問い合わせフォーム



<https://forms.gle/rKKi4We2poN2FJZu8>

- 一部の不具合（以下5つ）の問い合わせについてはこのフォームから簡単に問い合わせられるようになりました。（12/1から）

1. アクティビティの強制終了依頼
2. 「This Item is being edited.A-yyyyymmdd-xxxxx」というメッセージが表示されアイテムの編集ができないため、エラーメッセージで示されるアクティビティを強制終了してほしい
3. アイテムURLをクリックするとページ未検出となるため、閲覧できるようにしてほしい
4. アイテム個別編集時に「エラーが発生しました」と表示されるため、アイテム個別編集できるようにしてほしい
5. アクティビティを開始すると「権限が必要です」から始まるエラーメッセージが出力されるため、アクティビティを再開できるようにしてほしい（ロックを解除してほしい）

14

[5] JAIRO Cloud操作説明会動画（2024）



再生リスト：
https://www.youtube.com/playlist?list=PLZdRLSdt3sbGAF2x5YCaB4iC4xvU_z0WU

- 紀要論文、博士論文の登録作業について動画で説明しています。
- 操作の一連の流れを見ることはもちろん、見たいところまでスキップしてゆっくり見ることもできます。



15

[6] JAIRO Cloud非公式まとめ



https://wiki.code4lib.jp/wiki/JAIRO_Cloud

- JAIRO Cloud (WEK03) を利用している有志が、実用的な情報・ツールを非公式にまとめているサイトです。
- 特に質問集は、操作でつまづいた時に見てみると解決策が書いてあるかも…
- 紹介されている情報やツールは実用的ではありますが、あくまで「非公式」なことに注意して自己責任で操作してください。



16

[7] JPCOAR Community Slack



<https://jpcoar.org/support/communitytools/jpcoar-community-slack/>

- JPCOAR会員機関、特に**実務担当者間の情報共有・相互協力のためのツール**です。（JAIRO Cloud以外のリポジトリを使っても利用可能！）
- 利用にはJPCOAR Webサイト（上記URL）から参加申請が必要です。
- 以下のようなチャンネルで情報交換・相談・お困りごとの投稿…ができます。

◎all-jpcoarcommunity

情報交換、質問、自慢、宣伝等、多様な目的でお使いください。

◎all-リポジトリ初心者相談室

どんな初心者のような質問をしても恥ずかしくない！ことを目的としたチャンネルです。回答できる質問などが投稿されたら、ぜひみんなで助け合いましょう。

◎jairo_cloud

任意参加のチャンネルです。
JAIRO Cloudに関する情報共有のためのチャンネルです。

17

[7] JPCOAR Community Slack



18

【8】リポジトリ業務を学ぶ (JPCOAR Webサイト)

<https://jpcoar.org/support/repository-abc/>



- ・機関リポジトリや、オープンアクセス・オープンサイエンスに関わる知識・情報について、JPCOARが作成した教材や、開催した研修・イベントをまとめています。
- ・新任担当者向け研修の資料から、JPCOARスキーマ、IRDB連携に関するセミナー資料まで、ひとつおりのリポジトリ業務を理解するための資料がそろっています。



19

さいごに



- ・JAIRO Cloudを使いこなせるようになる必要はなく、だんだん慣れていけばそれで十分です。
- ・困った時に助け合うコミュニティがあります。遠慮なく頼ってください。
- ・JAIRO Cloud作業部会では、困った時に頼りにできるマニュアルの作成やツールの活用について引き続き鋭意検討中です。利用できるようになったら改めて周知します。

ご清聴ありがとうございました。

20

(参考) 紹介したURL一覧 (+α)

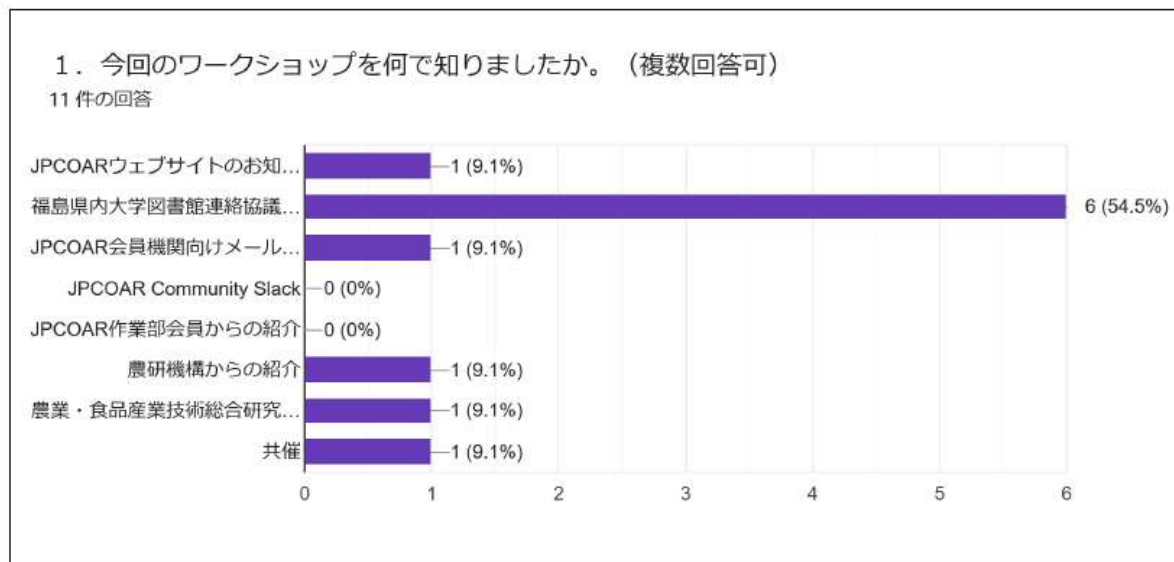


- ・ [1] JAIRO Cloudサポートポータル
<https://jpcoar.org/support/jairo-cloud/portal/>
- ・ [2] 基本マニュアル
<https://jpcoar.org/support/jairo-cloud/manual/>
- ・ [3-1] JPCOAR JAIRO Cloud Community メーリングリスト (※紹介ページへのリンク)
<https://jpcoar.org/support/community/roster/jairo-cloud-community-ml/>
- ・ [5] JAIRO Cloud操作研修動画 (2024) 再生リスト
https://www.youtube.com/watch?v=5229L5ub38g&list=PLcYQab4lC4evU_xDWu
- ・ [6] JAIRO Cloud非公式まとめ
https://wiki.ode4j.jp/wiki/JAIRO_Cloud
- ・ [7] JPCOAR Community Slack (※紹介ページへのリンク)
<https://jpcoar.org/support/community/roster/jpcoar-community-slack/>
- ・ [8] リポジトリ業務を学ぶ (JPCOAR Webサイト)
<https://jpcoar.org/support/repository-abc/>
- ・ リリースノート・最新の記事リスト (JAIRO Cloudアップデート内容と、対応中の課題)
<https://wiki.ode4j.jp/wiki/spaces/JAIROCloud/FAQ/page/43850762>
- ・ JPCOAR Webサイト
<https://jpcoar.org/>
- ・ JAIRO Cloud (JPCOAR Webサイトの紹介ページ。非JAIRO Cloud利用機関でJAIRO Cloudに切り替える場合はこちら)
<https://jpcoar.org/support/jairo-cloud/>
- ・ JPCOAR WebMagazine
<https://magazine.jpcoar.org/>
- ・ 機関のリポジトリ担当者が交代する場合の対応ガイド (2025年3月版)
<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2005880>
- ・ IRDB
<https://irdb.nii.ac.jp/>

21

第32回福島県内大学図書館連絡協議会実務者研修会アンケート結果

(JPCOAR イベント運営作業部会作成「JPCOAR 地域ワークショップ@福島 実施報告書」より一部抜粋)



選択肢

- JPCOAR ウェブサイトのお知らせ
- 福島県内大学図書館連絡協議会からののお知らせ
- JPCOAR 会員機関向けメール (およびその転送)
- JPCOAR Community Slack
- JPCOAR 作業部会員からの紹介
- その他：
 - 農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)からの紹介(2件)
 - 共催

2. 今回のワークショップはいかがでしたか？

11件の回答



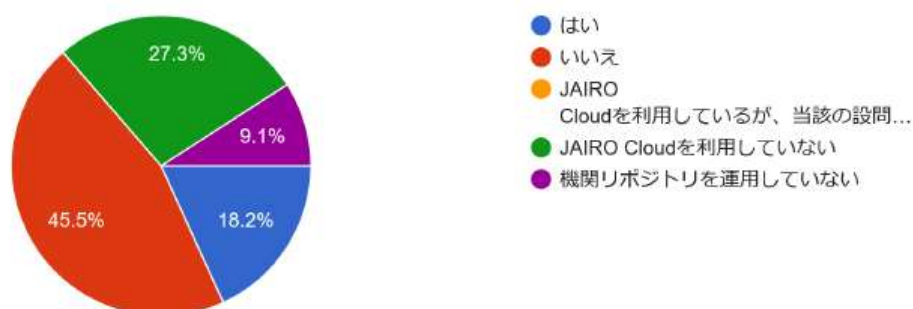
(質問項目 2-1, 2-1 省略)

3. 申し込みフォームで回答した「JAIRO Cloud に関連して、日常の業務で困っていること・悩んでいること」は解消しましたか？※JAIRO Cloud を使用していると回答した方だけの設問です。

3. 申し込みフォームで回答した「JAIRO

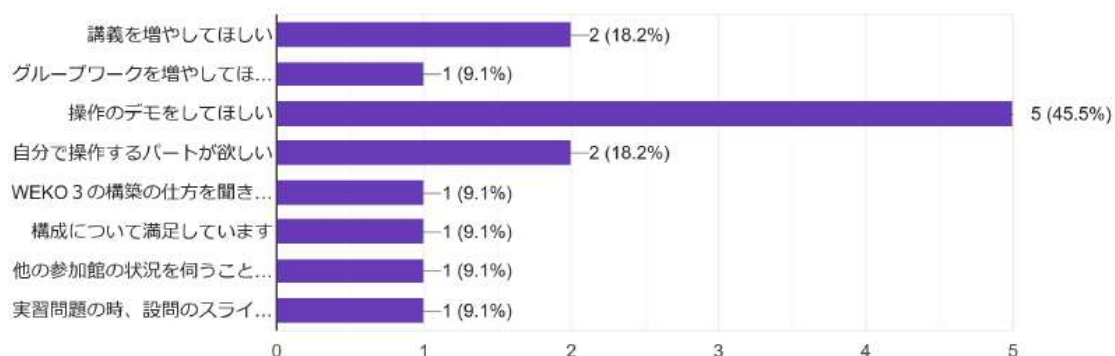
Cloudに関連して、日常の業務で困っていること...oudを使用していると回答した方だけの設問です。

11件の回答



(質問項目 4 省略)

5. ワークショップは講義・グループワークを織り交ぜた形式にしましたが、いかがでしたか？
11件の回答



選択肢

- 講義を増やしてほしい
- デモを増やしてほしい
- グループワークを増やしてほしい
- 自分で操作するパートが欲しい
- その他:

■ WEKO3の構築の仕方を聞きたかった。

■ 構成について満足しています。

■ 他の参加館の状況を伺うことができ、大変参考になりました。

■ 実習問題の時、設問のスライドではなくヒントのスライドを掲示してましたが、課題の論文を確認できませんでしたので、設問のスライドを掲示していて欲しかったです。

6. 開催時期については、いつ頃がよろしいでしょうか？

11件の回答



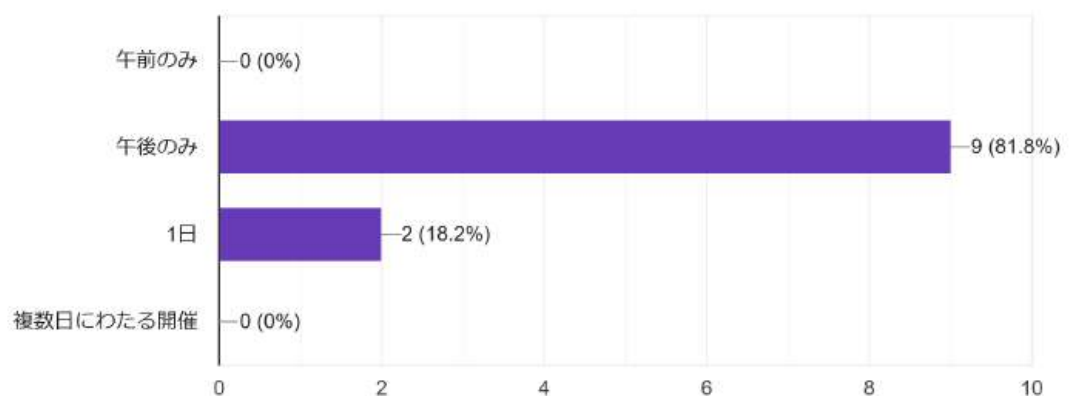
選択肢

- もう少し早い時期に
- 適当
- もう少し遅い時期に
- その他:

■ 今回は、雪で交通状況に不安があったため、春～秋頃にかけて実施していただけるとたいへん助かります。

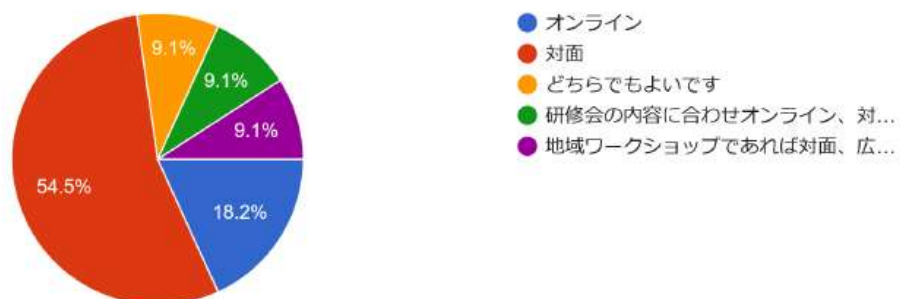
7. 開催日程は、どのような方式がよろしいでしょうか？

11件の回答



8. 開催方法は、いずれがよろしいでしょうか？

11件の回答



選択肢

オンライン

対面

その他:

■ どちらでもよいです。

■ 研修会の内容に合わせてオンライン、対面どちらの開催方法でもよいと思います。

■ 地域ワークショップであれば対面、広い地域を対象とするなら併用がいいと思います。

(質問項目 9 省略)

福島県立図書館 新サービスの紹介

福島県立図書館

福島県立図書館は、昭和4（1929）年2月設立、同年10月福島市杉妻町の紅葉山公園内に開館し、同市松木町への移転を経て、昭和59（1984）年7月に現在の場所・同市森合へ移転しました。昨年度7月に森合移転40周年という節目を迎え、今年度1月にはシステムを刷新しました。より便利になった5つの新サービスをご紹介します。

1 ウェブサイト & 横断検索がリニューアル

ウェブサイトはデザインや構成を一新し、より使いやすく生まれ変わりました。

また、県内の市町村図書館・大学図書館・専門図書館の蔵書をまとめて検索できる「県内図書館横断検索」もリニューアル。一部の資料は書影が表示できるようになりました。



2 ウェブからの「仮登録申請」が可能に

「初めて利用するけれど、館内での手続きを短縮したい」という時にぜひご活用ください。来館前にウェブから申請しておくと、カウンターでの利用カード発行が非常にスムーズです。

※本登録への切り替えには、ご本人確認のため来館が必要です。

3 デジタルアーカイブの開設

デジタル化した当館所蔵資料（古地図や古い写真など）を、ウェブでどなたでも閲覧することができます。（資料は随時追加予定）

公開されている画像は、ダウンロードして利用可能です。ご自宅や学校でぜひご活用ください。

● アクセス方法

検索エンジンで「福島県立図書館デジタルライブラリー」と検索していただくか、当館ウェブサイトの「ピックアップメニュー」→「デジタルアーカイブ」からご覧ください。



4 セルフ貸出機を設置

窓口に並ぶことなく、ご自身でパッと貸出手続きができる「セルフ貸出機」を導入しました。操作も簡単ですので、お急ぎの際やマイペースに手続きしたい時にご活用ください。



5 座席予約システムの導入

館内にある専用端末から、閲覧席や学習席の利用申し込みができるようになりました。

予約機の画面でリアルタイムの空席状況を確認できるため、席を探して館内を歩き回る必要がありません。

※館内端末のみの受付です。ウェブからの予約はできませんのでご注意ください。

当館は、令和 11（2029）年には、昭和 4（1929）年 10 月の同市杉妻町紅葉山公園内での開館から 100 年を迎えます。開館 100 周年に向けて、これからも県民の皆さまに親しまれ頼りにされる図書館を目指して、様々なことに取り組んでまいります。

福島県内大学図書館連絡協議会会則

制定 昭和60年2月28日
改正 平成 2年7月 6日
改正 平成 5年7月 9日
改正 平成 7年7月25日
改正 平成12年7月14日
改正 平成15年7月11日
改正 平成16年8月 6日
改正 平成17年8月 5日
改正 平成18年8月24日
改正 平成27年9月17日
改正 平成29年7月20日
改正 令和 元年7月25日

- 第1条 本会は、福島県内大学図書館連絡協議会（以下「協議会」という）と称する。
- 第2条 協議会は、次の大学図書館及び福島県立図書館並びに福島工業高等専門学校図書館をもって組織する。
- 1 会津大学情報センター
 - 2 会津大学短期大学部附属図書館
 - 3 医療創生大学図書館
 - 4 奥羽大学図書館
 - 5 郡山女子大学図書館
 - 6 桜の聖母短期大学図書館情報センター
 - 7 昌平図書館（東日本国際大学・いわき短期大学）
 - 8 日本大学図書館工学部分館
 - 9 福島県立医科大学附属学術情報センター
 - 10 福島学院大学図書館情報センター
 - 11 国立大学法人福島大学附属図書館
- 第3条 協議会は、加盟館相互の緊密な連携と協力により、図書館の施設、管理、運営などについての進歩、改善を図ることによって、地域社会の進展に寄与することを目的とする。
- 第4条 協議会は、前条の目的を達成するため、随時図書館に関する講習会の開催、その他必要と認める事業を行なうものとする。
- 第5条 協議会の総会は年1回開催する。但し、必要に応じて臨時に開催することができる。
- 2 開催地については、原則として福島地区、郡山地区、いわき地区、会津地区とし、1か年交代とする。
- 第6条 会務を処理するために、幹事館をおく。
- 2 当分の間、福島大学附属図書館を常任幹事館とする。
 - 3 第5条第2項における開催地区の加盟館の中から、協議によって、年度幹事館を選出し、年度幹事館は当該年度総会その他の事業運営を処理する。
- 第7条 本会の会計監査を行うために、会計監事をおく。
- 2 会計監事は、総会において常任幹事館及び年度幹事館を除く加盟館から1館選出する。任期は1年とし、再任を妨げない。
 - 3 会計監事は、総会において監査結果を報告する。
- 第8条 協議会の事務局は、常任幹事館内におく。
- 第9条 協議会の運営に要する経費は、会費その他の収入をもってあてる。
会費は年額5,000円とし、会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

- 附 則 この会則は、平成2年7月6日から施行する。
- 附 則 この会則は、平成5年7月9日から施行する。
- 附 則 この会則は、平成7年7月25日から施行する。
- 附 則 この会則は、平成12年7月14日から施行する。
- 附 則 この会則は、平成15年7月11日から施行する。
- 附 則 この会則は、平成16年8月6日から施行する。
- 附 則 この会則は、平成17年8月5日から施行する。
- 附 則 この会則は、平成18年8月24日から施行する。
- 附 則 この会則は、平成27年9月17日から施行する。
- 附 則 この会則は、平成29年7月20日から施行する。
- 附 則 この会則は、令和元年7月25日から施行し、平成31年4月1日から適用する。

(会則第7条についての申し合わせ)

常任幹事館においては、会計処理、記録保存などの総合的会務を処理する事務局機能を担当し、年度幹事館は、常任幹事館との密接な連携の下に、当該年度総会その他の事業実施事務を担当する。

福島県内大学図書館連絡協議会誌 第27号

令和8年（2026年）3月

編集 : 福島大学附属図書館
編集協力 : 会津大学情報センター
発行 : 福島県内大学図書館連絡協議会
〒960-1293 福島市金谷川1番地
福島大学附属図書館内
TEL : 024-548-8082 / FAX : 024-548-2377
